

中国高校生42名との交流

平成22年度6月11日(金)に、政府が2007年度から実施している「21世紀東アジア青少年大交流計画」の一環として中華人民共和国河北省の高校生達が本校を訪問しました。

生徒会執行部の生徒が中心になって、中国の高校生達と、ソーラン節・日本舞踊・楽器演奏など伝統文化について紹介し合い、お互い楽しい時間を共に過ごしました。またいくつかのグループに分かれて授業を見学したり、クラブ活動(弓道部、茶道部)を体験したり、様々な経験をしました。最後のお別れ会では、涙を流して抱きしめ合う生徒達の姿も見られました。午後5時には日本の生活を体験することを目的にそれぞれホームステイ先へと向かいました。

お互い言葉は通じないけれど、積極的に身ぶりや手ぶりで分かり合おうとする生徒達の気持ちが伝わってくる、大変すばらしい交流だったと思います。

生徒の感想

生徒会執行部として、一生懸命練習したソーラン節も無事成功し、弓道部員でもある私は、急いで袴に着替え弓道場に向かいました。クラブ活動の体験の時間になり、中国の高校生達の前で弓道をするのは、実際の大会よりも緊張しました。しかし、的的中すると「よし!」と掛け声を掛けてくれたり、拍手をしてくれたりしたことが、とても嬉しかったです。

中国にも弓道というものがありますが、弓の形や大きさ、的までの距離などが日本とは異なり、何より高校生には馴染みがないようです。弓道部の顧問の先生の説明も真剣に聞いていて、弓道人の一人として弓道を知ってもらえて本当に良かったです。

実際に中国の高校生達ひとりひとりに弓を引いてもらって説明するときも、言葉の壁があったけれど、身ぶりや手ぶり、簡単な英単語などで理解でき、楽しい時間を過ごすことができました。

中国の高校生達が交流に来るまでの私の中国への印象は、ニュースなどを見たりする限りではあまり良いものではありませんでした。

しかし、実際に交流をしてみて、ソーラン節をしたあとに感動したと話してくれたり、様々な場面で積極的に話しかけてくれたりしたときは、本当に嬉しくて中国へのイメージは一気に変わりました。

グループ別行動のときは、私は会議室で一緒に折り紙をしました。そのときに自己紹介をしましたが、中国の高校生のなかに日本語で自己紹介をしてくれた人もいて、感心すると同時に自分ももっと中国語を勉強しておけば良かったなと思いました。折り紙は自分で教えたり、一緒にやっている人に教えてもらったりなど楽しい時間を過ごす事ができました。

他にも中国では日本の漫画が流行っているようで、何を読んでいるのか、どのキャラクターが好きなのかという話でも盛り上がりました。

お別れするときには、たくさんの人からプレゼントをもらったり、メールアドレスの交換をしたりなど、別れるのがとても悲しかったです。言葉が上手く伝わらず歯がゆい思いもしましたが、短い時間でも気持ちはしっかり通じ合えるということを実感できた一日になりました。



生徒会のお迎え



最初は互いに緊張



学校長の挨拶



記念品の交換



身振り手振りでコミュニケーション



身振り手振りでコミュニケーション



日本舞踊の披露



高校生訪日団代表のあいさつ



弓道部による弓道体験



弓道部による弓道体験



茶道部によるお手前の体験



茶道部によるお手前の体験



みんなで記念撮影